

2025年3月3日作成 Ver.1.0

《情報公開文書》

低侵襲心臓手術における心筋保護液投与間隔が術後に与える影響

研究の概要

【背景】低侵襲心臓手術（Minimally Invasive Cardiac Surgery, MICS）は、従来の正中切開による開胸手術と比較し、胸骨を大きく切開せずに小さな切開から行う手術方法です。MICSの利点として、術後の痛みが少ない、回復が早い、入院期間が短いなどが挙げられます。しかし、手技の複雑さから、手術中の体外循環時間や大動脈の遮断時間が長くなる傾向にあります。そのため、安全な心臓手術のためには手術中に使用する心筋保護液が重要となります。この心筋保護液は、心臓手術中に心筋の酸素供給を維持し、心筋の損傷を最小限に抑えるために用いられます。しかし、多くの研究が心筋保護液の有効性や安全性を評価しているものの、具体的な投与間隔に関する統一見解はいまだ確立されていません。

【目的】低侵襲心臓手術（MICS）における心筋保護液の投与間隔が術後の心筋機能や患者さんの回復に与える影響を明らかにすることを目的とします。

【意義】本研究により最適な投与間隔を明らかにすることで、安全で効果的な心筋保護の確立に寄与することができると考えられるため、研究を行います。

【方法】通常診療において記録されたカルテ情報を用いて、心筋保護液の投与間隔と手術後の心筋障害の関連性についてデータ解析を行います。

対象となる患者さん

当院で2020年5月15日～2024年7月3日までの間に低侵襲心臓手術（MICS）による僧帽弁形成術または置換術を受けた患者さんを対象とします。

研究に用いる情報

●研究に用いる情報

下記の情報を診療録より収集します。

【術前】年齢、性別、身長、体重、BSA、BMI、血液データ(Hb・Hct)、僧帽弁逆流度(MRのGrade)、基礎疾患

【術中】術式、体外循環時間、大動脈遮断時間、心筋保護液投与量、最大投与間隔、最低直腸温、手術室退室時の薬の使用量

【術後】ICU入室翌日の薬の使用量、血液データ(Hb・Hct・CK-MB)測定タイミング：ICU入室時、ICU入室翌日、挿管期間、ICU滞在時間、入院期間、術後30日以内の治療の経過

本研究で利用する情報等について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「お問い合わせ

先」までご連絡ください。	
情報の利用開始予定日	
本研究は 2025 年 5 月 29 日より「研究に用いる情報」を利用する予定です。	
<p>あなたの情報をこの研究に使われたくない方は下記の「問い合わせ先」までご連絡頂ければ対象者から外します。その場合もあなたの治療等に不利益になることはありません。</p> <p>ご連絡のタイミングによっては対象者から外せない場合もあります。</p> <p>あらかじめご了承ください。</p>	
研究実施期間	
研究機関長の許可日～2025 年 6 月 30 日	
研究実施体制	
研究責任者	所属：長崎大学病院 ME 機器センター 氏名：吉富 拓 住所：長崎県 長崎市 坂本 1-7-1 電話：095 (819) 7200
情報の管理責任者	長崎大学病院 病院長
問い合わせ先	
【研究の内容、情報等の利用停止の申し出について】 長崎大学病院 ME 機器センター 吉富 拓 〒852-8501 長崎市坂本 1 丁目 7 番 1 号 電話：095 (819) 7863 FAX 095 (819) 7484	
【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く） 苦情相談窓口：医療相談室 095 (819) 7200 受付時間 : 月～金 8:30～17:00 (祝・祭日を除く)	